観世流

緑泉会

Kanzeryu Noh-Theatre Ryokusenkai

能 巴 Tomoe …… 新井麻衣子

狂言 福の神 Fukenokami …… 三宅 右近

能 隅田川 Sumidagawa …… 桑田 貴志

平成28年 第4回例会

12.17 [土] PM1:00～（開場12:00）

喜多六平太記念能楽堂

『巴』シテ：桑田貴志（撮影：吉越 研）　『隅田川』シテ：津村禮次郎（撮影：森田拾史郎）

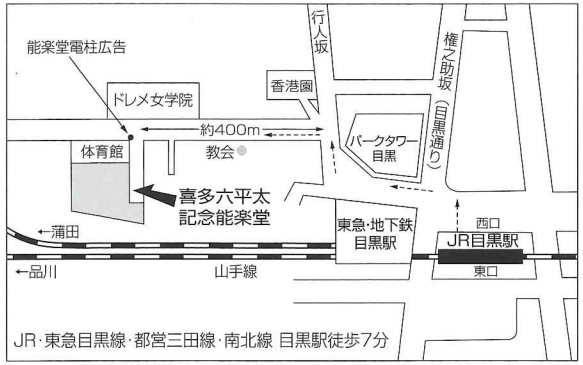
第4回例会

2016. 12.17 [土] PM1:00（開場12:00）

喜多六平太記念能楽堂

〒141-0021 品川区上大崎4-6-9　TEL 03-3491-8813

JR、東急目黒線、地下鉄三田線・南北線の目黒駅西口より徒歩7分。
香港園手前の道を左折し約400m直進、杉野学園体育館手前を左に入る。
※駐車場がございませんので、お車でのご来場はご遠慮下さい。



●入場料

会員券（年4回）……一般 20,000円　学生 10,000円
1回券（当日券）……一般 6,000円　学生 3,000円

●申込先：各出演能楽師または緑泉会まで

新井麻衣子　TEL•FAX 04-2946-8389
桑田　貴志　TEL•FAX 03-3643-0891

緑泉会　〒184-0005 東京都小金井市桜町2-7-18
tel. 042-386-2131　fax. 042-386-2132

平成二十八年 第四回例会 番組

能
巴
里女 巴御前　新井麻衣子
旅僧　高橋　正光
里人　高澤　祐介
大鼓　佃　良太郎
小鼓　住駒　充彦
笛　寺井久八郎
後見　墨　敬子　鈴木　啓吾
地謡　河井　美紀　菅野　貞男　藤村　答　坂　真太郎　杉澤　陽子　中森　貫太　中所　宜夫　奥川　恒治

舞囃子
邯鄲
津村禮次郎
大鼓　佃　良太郎
小鼓　住駒　充彦
太鼓　小寺真佐人
笛　松田　弘之
地謡　坂　真太郎　鈴木　啓吾　観世　喜正　永島　充

【休憩 十五分】

狂言
福の神
福の神　三宅　右近
参詣人　三宅　右矩　参詣人　近成

仕舞　巻絹　キリ　永島　充
江口　クセ　観世　喜正
富士太鼓　奥川　恒治
地謡　河井　美紀　中森　貫太　津村禮次郎　中所　宜夫

【休憩 十分】

能
隅田川
梅若丸　桑田大志郎
狂女　桑田　貴志
渡守　安田　登
旅人　吉田　祐一
大鼓　佃　良勝
小鼓　大倉源次郎
笛　松田　弘之
後見　河井　美紀　津村禮次郎
地謡　吉留　敬高　坂　真太郎　奥川　恒治　永島　充　中森　貫太　鈴木　啓吾　観世　喜正　中所　宜夫

附祝言

【終了予定　午後四時半頃】

能――**巴**（ともえ）

木曽に住む僧（ワキ）が都へ上る途中、近江国粟津が原に着くと一人の里女（前シテ）が現れ、松の木陰の社に参拝し涙を流している。不審に思った僧が女に言葉をかけると、女は古歌を引き、神社の前で涙を流すことは不思議ではないと答える。そしてここはあなたと故郷を同じにする木曽義仲公が神として祀られているところであると教え、その霊を慰めてほしいと頼み、実は自分も亡霊であると言い残して、夕暮れの草陰に消えていく。（中入）

僧は里人（間狂言）に義仲の最期と巴御前のことを聞き、読経しつつ一夜を明かす。そこに長刀を持った甲冑姿の女（後シテ）が現れ、自分は巴という女武者だと名乗る。そして義仲の最期の有様や、義仲の遺言により一緒に死ぬことが許されなかったことの無念さ、自らの戦模様を語り見せる。形見の品を持って一人落ち延びた巴であったが、いまだにある心残り、その執心を晴らしてほしいと重ねて回向を願って消え失せる。

「巴」は二番目物・修羅物に分類されるが、シテが女性であることが特徴的である。またそれゆえ雄々しい戦物語の中にも女の恋慕の悲しさがにじみ、幽玄の情緒に富む一曲である。

舞囃子――**邯鄲**（かんたん）…蜀の国の青年盧生は、旅の途中、邯鄲の里の宿で不思議な枕に出会う。その枕で見た夢の中で、盧生は帝王となり、この世の最高の地位とすべての栄華を手に入れる。五十年の月日が流れ、ついには千年の寿命を保つ仙薬を得る盧生。歓喜の絶頂に達し、自ら喜びの舞を舞う。しかしその舞の途中、すべてのものが一瞬のうちに消え去り、盧生は夢から覚める。

狂言――**福の神**（ふくのかみ）

二人の男が福の神の社に年越しのお参りにやってきて、参拝を済ませて豆をまきはじめると、笑い声がして福の神が現れる。福の神は自分から名乗ると神酒（みき）を催促する。そして豊かになるには元手がいると二人に話すが、さてその元手とは…。

仕舞――

巻絹　キリ（まきぎぬ）…数々の神々が乗り移った巫女。神の威力が増して狂おしく激しく舞うが、やがて神は天に上がり、巫女は本性に戻る。

江口　クセ（えぐち）…弔う僧の前に船に乗って現れた遊女たち。江口の君は人間の罪業の宿命、世の無常の理を語って舞を舞う。

富士太鼓（ふじだいこ）…楽人である夫富士を殺された妻は、悲しみのあまり夫の太鼓を敵とし、撥を剣と見立てて太鼓に打ちかかる。その後楽を打ち鳴らし、これこそ形見の太鼓なのだと思い返し、故郷へと帰っていく。

能――**隅田川**（すみだがわ）

人買いにさらわれた我が子（梅若丸）を尋ねて、一人の母親（シテ）が、はるばる京都から東国の隅田川までやって来る。渡し守（ワキ）に乗船を願い、面白く舞うよう言われ、我が子を捜し求めてここまで来た様を舞って見せ、乗船を許された母。船に乗っていると、向こう岸から大念仏の声が聞こえる。渡し守が去年都から人商人の連れてきた少年が亡くなった物語をすると、母は、それが自分の捜し求めている子だと気づく。舟が向こう岸に着くと、渡し守は母をその子の墓につれて行く。皆で大念仏を唱えていると、人々の声に混じって、亡くなった子どもの声が聞こえて来る。そこで母がもう一度一人で念仏を唱えると、目の前に梅若丸の霊が現れるが、手に触れることもできないまま夜は明け、我が子の姿は消え失せる。

手に持った笹は狂女の象徴。「隅田川」のように、子を捜し求めて狂乱する母を描く能は「狂女物」といわれる。それらの多くが、母と子が再会を遂げるという結末であるのに対し、この能のみが悲劇的な結末に終わる。母親の悲哀が、深く心に残る能である。

●平成29年 第1回例会……2月5日（日）

能……鶴亀……中所　宜夫
能……千手……坂　真太郎